

北京日本人学校 最新レポート 2

2012年12月20日

北京日本人学校教諭 完田 八郎

北京の近況

今年の北京は日中国交正常化40周年ということで、前半は非常によい環境で学校生活を送ることができました。しかし、9月にあった尖閣諸島の問題を契機に日本人学校に多くの課題をつきつけられる年になりました。大使館前では毎日のように激しいデモが行われ、日本人に対する風当たりも非常に厳しいものを感じました。もちろん日本大使館に近い場所にある北京日本人学校も国内情勢に細心の注意を払って子どもたちを見守っていましたが、幸い直接的な被害はありませんでした。



しかし、デモの影響で学校が臨時休校になったほか、運動会には保護者の参観はなく、子どもたちだけで運動会の実施となりました。それでも子どもたちは練習してきた演技を一生懸命にやり遂げ、その様子は後日、DVDを作成して保護者に届けられました。

年末を迎えた現在では、北京も平静を取り戻しつつありますが、北京の現地校との交流活動などはほとんどキャンセルとなる状況にあります。9月前の状況に戻るにはもう少し時間がかかりそうです。

北京日本人学校の子どもの様子

ここ数年は児童数の増減は横ばいで小学部・中学部を合わせ600名強が在籍しています。昨年度同様に校内では縦割り班での行事や清掃活動が多く設定され、縦のつながりを大切にした活動が多くあります。中学生のよさを小学生がマネをするといったメリットがたくさんあります。

国際交流ドッジボール大会

北京にはたくさんの国の大使館があり、同時に世界各国の学校があります。日本人学校の低学年は毎年1月に「国際交流ドッジボール大会」を開催して、中国の子どもたちだけでなく各国の子どもたちとも交流を深めています。今年はドイツとフランスの子どもたちが参加してドッジボールを通じて交流会を行いました。言葉はなかなか伝わりませんが、子どもたちの笑顔は時には言葉を超えるコミュニケーションとなっています。



スケート学習

北京の冬は雪がほとんど降りませんが気温は非常に低く、 -10°C 以下になることはそんなに珍しいことではありません。そのために川や公園の池の水が完全に凍結します。1月にはその場所を利用して日本人学校の全学年が体育でスケート学習を行っています。全国各地から集まっている子どもたちなのでスケートが得意な子、そうでない子がいますがみんな楽しそうに氷の上の感触を楽しんでいます。私自身も北京に来てはじめてスケートに取り組みました。なかなか難しいものですが、氷の上を滑るのは気持ちのいいものですね。



雑伎や京劇の鑑賞会

北京日本人学校には「鑑賞教室」という行事があります。昨年は学校の体育館で雑伎団の方が雑伎を披露する鑑賞会が開催され、実際に目の前で本場の技を堪能することができました。今年は京劇団の皆さんが来校し、中国の伝統芸能である京劇を鑑賞しました。

また、2年生は国語の「スーホの白い馬」の学習をします。その内容にちなんで、毎年、内モンゴル出身の馬頭琴の演奏家の方に来ていただき演奏会を行っています。内モンゴルに伝わる物語を聞き、それにちなんだ曲を聞くと物語の世界が頭の中にはっきりと浮かびます。

私も演奏家の先生に教えていただいて馬頭琴を演奏してみました。意外に簡単に音が出ることに驚きました。

このように日本人学校では中国の文化に直接触れる機会が多くあります。



おわりに

私が北京にやって来てもうすぐ2年が経とうとしています。中国と日本の間にはまだまだ様々な課題が残されています。文化の違うこの街で私も大変な経験をたくさんしてきました。それでもだんだんと中国のことが好きになっています。北京にいると中国の人たちのすばらしい部分をたくさん目にすることがあります。例えば、バスや地下鉄の中では必ずといっていいほど、人々はお年寄りや子どもや妊婦さんに率先して席を譲ります。本当にこういった姿は日本では見られないと感じました。さらに道端ではお年寄り同士がお互いに声をかけあったり、外国人であろうと子どもであろうと気さくに話しかけたりします。本当に積極的にコミュニケーションを楽しむ人たちだと感じます。

異国の地で少数派の外国人として生活するといろいろなものが見えてきます。日本や日本人の素晴らしい部分や海外の人に比べて足りない部分。この北京で気付いたり知ったりしたこれら多くのことを鳥取の子どもたちにもたくさん伝えたい気持ちがどんどん湧いています。